

その情報が“オリジナル”なのか “引用”なのかを確認する

インターネットでは、クリックひとつで情報を拡散することができてしまいます。しかし、それによって、あなたがフェイクニュースを世の中に広めてしまう危険性があります。

その危険性を少しでもなくすために、最初に行わなくてはならないのが、その情報が“オリジナル”なのか“引用”なのかを確認することです。

元になる情報を必ず確認する

ツイッターなどのSNSには、面白い情報があふれています。そして、ツイッターには、「リツイート」や「引用ツイート」という機能がついているため、あまり深く考えずに、すぐに情報を広めることができてしまいます。

そうした情報が、どんどん広まっていく中で、大元の情報源がどこのだれのものだったのかがわかりにくくなってしまふこともあるのです。

ウェブサイトやブログでも同じです。他人のウェブサイトやブログなどから、文字情報や画像情報をコピーして、自分のウェブサイトやブログなどに掲載し、あたかも自分が発信源であるかのようにしてしまうこともできます。

そのため、興味のある情報に接したら、まずは、それがオリジナルの情報なのか、引用なのかを確認し、引用であることが明らかな場合には、必ず、元になっている情報を確認

するようにしましょう。

複数の情報を調べて、確からしさを確認する

興味深い情報に接した時に、そのウェブサイト上で、明確に「この情報は、xxからの引用です」と書かれていれば、その元の情報を確認することもできますが、引用でありながら、それが引用であることが書かれていない場合もあるので、インターネットの情報について、確からしさを確認することが難しくなります。

そのような場合には、検索サイトなどを利用し、同じような情報を掲載しているサイトを探して、複数のウェブサイトなどを確認することも大切です。

それによって、あるウェブサイトで、まるでそのサイトのオリジナル情報のように書かれていた内容が、実はどこからかの“引用”であることがわかることもあります。

さらに、その“引用元”をたどっていくことで、大元の情報発信源にたどり着くことも可能になります。

ですから、インターネット上で情報に接する時には、ひとつのウェブサイトなどの情報に頼るのではなく、必ず複数のウェブサイトなどで、情報の確からしさを確認することが、とても大事なのです。

インターネットの特徴を使いこなし、情報の確からしさを確認する

インターネットでは、ネット上の文章や写真などをカンタンにコピーでき、さらにそれを自分のオリジナルの情報であるかのように

発信することができてしまいます。

そしてその情報が正しいものなのか誤っているものなのかは、わたしたちにはなかなか見分けがつきにくいのも事実です。

その一方で、インターネットには、あるテーマについてカンタンに調べることができるという大きな特徴があります。

これらの、インターネットの特徴を使い、情報の確からしさを確認する習慣を身につけることで、ウソの情報にまどわされたり、フェイクニュースを広めてしまったりしないようにしましょう。

「引用」であることを明らかにしないと、自分がフェイクニュースの発信元になってしまう！



ウソの情報にまどわされないようにすることが大切



自分と、他人のプライバシーにも気をつける

インターネットを利用する時の「プライバシーの問題」というと、自分のプライバシーのことを考えがちです。しかし、何気ないSNSへの投稿や、写真の掲載によって、友だちや他人のプライバシーに悪い影響が発生してしまっているケースもあります。プライバシーについては、自分のことはもちろん、友だちや他人のプライバシーにも注意が必要です。

プライバシーの保護と匿名性の悪用は別物

自分のプライバシーを守る方法として、匿名性を利用することはよくあることでしょう。本名を名乗ることなく、ニックネームやハンドルネームなどを登録するだけで利用できるSNSなどでは、多くの人が匿名でいろいろな情報発信をしています。

匿名であることの良い点は、何かの発言をしたことについて、その発言に反対意見をもつ人から、なんらかのいやがらせをされたり、意見そのものについての反対意見などではなく、個人を攻撃するような悪口などから守られたりするという点にあります。

しかし中には、匿名であることによって自分が特定されないことをいいことに、他人を名指しして悪口をいったり、他人をおとしめるような発言をしたりする人がいます。これは、匿名性の悪用でしかありません。

もともと匿名性もっている、個人のプライバシーを守って自由な発言を可能にするという良い点とは、まったく別のものなのです。

匿名性によるプライバシーの保護ということと、匿名性を悪用することを混同してはいけません。

たとえば、自分のクラスの中に相性の合わない人がいたとして、「どうせ、だれが発言したかわからないだろう」と思って、「あいつは、この前のテストの時にカンニングしていたぞ」というような、根も葉もない悪口をいったりするのは、匿名性の悪用でしかありません。決して、やってはいけないことなのです。

また、実はSNSなどにおける匿名性は、ぜったいに個人を突き止めることができない、というものでもありません。

もし悪用の程度が重大で、犯罪につながるようなものだった場合、警察などが“だれの発言なのか”をみつけることはできるのです。



意外と友だちのプライバシーはおろそかになる

匿名を利用するのは、自分のプライバシーを守るためですが、インターネット上で、いろいろな情報を発信する時には、自分のプライバシーと一緒に、友だちなどのプライバシーにも注意することを心がける必要があります。

たとえば、自分の家の前で撮影した写真をSNSなどに投稿すると、家がわかってしまうことを警戒して、投稿しないようにしているのに、友だちの家の前で撮影した写真については、特に注意をはらわずに投稿してしまうようなことがよくあります。そうすると、友だちの家が他人に知られてしまうことになります。それによって、友だちがトラブルに巻き込まれるかもしれません。

したがって、だれが写っているのかにかかわらず、不用意に写真などを投稿することはさげなければなりません。

場合によっては、あなたの家がわからなく

ても、友だちの家がわかってしまい、そこから、あなたがだれなのかを特定されてしまうこともあり得るのです。

インターネットの世界では個人の特特定は難しくない

自分では、十分に注意していたつもりでも、見る人が見れば、その写真が撮られた場所がどこなのか、その発言をした人がだれなのか、がカンタンにわかってしまうことは、よくあることです。

背景として写っている建物などの風景で場所を特定できることもありますし、着ている洋服や持ち物を見て、「同じクラスのxxさんだ」と気づかれることもあるかもしれません。

インターネットの世界では、1枚の写真や、ちょっとした発言を手がかりにして、どこのだれなのかを特定することはそれほど難しいことではないのです。

だからこそ、プライバシーにかかわる情報の発信は、特に注意する必要があります。

